

お手入れ

- お手入れのときは、必ず電源プラグを抜く。
- ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない。感電やケガをすることがあります。
- 本体や処理槽内部は、絶対に水洗いしない。感電や漏電による火災のおそれがあります。

本体のお手入れ

本体の汚れは、水または中性洗剤を含ませた柔らかい布で、拭き取ってください。

ご注意

- 乾いた布やブラシ、たわしなどでこすったり、クレンザー、ワックスなどで磨いたりしないでください。光沢をなくし、変色する原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用のさいは、その注意書きにしたがってください。

排気フィルターのお手入れ

- 「フィルター掃除」ランプが点灯しているとき。
(「フィルター掃除」ランプが点灯する時期(約1~2週間)は、バイオ基材の状態によって異なります)
- 「フィルター掃除」ランプが点灯していなくても、排気フィルターが汚れているとき。
(毎日の生ごみ投入量が少ない場合や、数日間生ごみを投入しなかった場合、処理槽内のバイオ基材が乾燥しすぎて、微粉が舞い汚れやすくなります)

次の手順でお手入れしてください。

- ① 電源を切り、電源プラグを抜きます。
- ② 排気フィルターは高温になっていますので、冷めるまで、約10分以上お待ちください。
- ③ 排気フィルターの汚れを、掃除機で吸い取ります。
- ④ 電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。
- ⑤ 「リセット」ボタンを短く1回押します。
「ピッ」と音がして「フィルター掃除」ランプが点灯しているときは消えます。



ご注意

- 目詰まりすると、湿気やガス成分の排気能力が低下し、においが強くなる原因になります。
- 運転停止直後は、排気フィルターが高温になっていますので、ご注意ください。

投入口付近のお手入れ

上扉の裏面や投入口の付近についた生ごみや汚れを拭き取ってください。

- においが発生したり、虫が寄りついたりしないようにするためです。

処理槽内のお手入れ

処理槽の内壁に生ごみやバイオ基材がこびりついたときは、付属の「バイオ基材交換棒」でかき落としてください。